

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 69人 国語B 68人

② 算数A 69人 算数B 68人

#### 5 留意事項

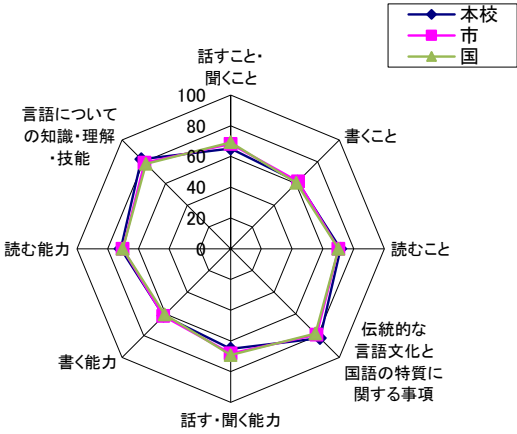
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

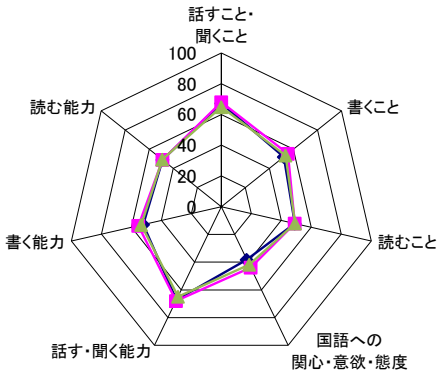
【国語A】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 65.2 | 68.2 | 69.2 |
|     | 書くこと                 | 61.6 | 62.0 | 60.6 |
|     | 読むこと                 | 71.5 | 70.2 | 70.2 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 82.2 | 79.1 | 78.0 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         |      |      |      |
|     | 話す・聞く能力              | 65.2 | 68.2 | 69.2 |
|     | 書く能力                 | 61.6 | 62.0 | 60.6 |
|     | 読む能力                 | 71.5 | 70.2 | 70.2 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 82.2 | 79.1 | 78.0 |
|     |                      |      |      |      |



【国語B】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 67.2 | 68.0 | 64.9 |
|     | 書くこと                 | 52.1 | 55.3 | 53.4 |
|     | 読むこと                 | 49.0 | 49.0 | 49.2 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 |      |      |      |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 38.2 | 43.9 | 41.7 |
|     | 話す・聞く能力              | 67.2 | 68.0 | 64.9 |
|     | 書く能力                 | 52.1 | 55.3 | 53.4 |
|     | 読む能力                 | 49.0 | 49.0 | 49.2 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      |      |      |      |
|     |                      |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

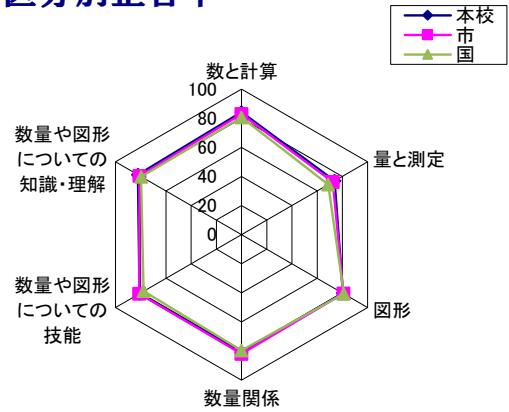
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                  | 今後の指導の重点                                                                                                                                                               |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | 平均正答率は、国語A、国語Bともに市の平均と比べるとやや低い。<br>○【グループの話し合いの様子】を読み取り、文中の言葉を使ってスピーチメモを使うことのよさについて書く設問の正答率は国を上回っている。<br>●目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫して自分の考えをまとめる設問の正答率は国を下回っている。              | ・グループやクラス全体の話し合い活動の中で、自分の考えとどう違うか比べながら聞くようにさせる。<br>・「話す・聞く」単元の学習では、学習のねらいを明確にし、話の構成を工夫してメモを作ってスピーチなどの学習活動を行い、日常生活でも、人前で話すときに話の構成、内容を工夫できるようにしていく。                      |
| 書くこと                 | 平均正答率は、国語A、国語Bともに市の平均と比べるとやや低い。<br>○内容の中心を明確にして書く設問の正答率は国を上回っている。<br>●目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えて書く設問の正答率は国を下回っている。                                                           | ・日記や行事のふり返りを書かせることで、文章を書く機会を多く持たせるようにする。また、作文用紙を使って文章を書く機会を多く持ち、作文用紙の使い方に慣れさせながら書く学習を充実させていく。<br>・「書く」単元の学習では、書く目的・意図を明確にし、その目的や意図に応じて文章の構成を工夫させるようにする。                |
| 読むこと                 | 平均正答率は、国語Aでは市の平均を上回っているが、国語Bでは、市の平均とほぼ同じである。<br>○登場人物の心情、場面についての描写を捉える設問の正答率は国を上回っている。これは、叙述に沿って読む学習を丁寧に行ってきた成果と考えられる。<br>●具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる設問の正答率は国を下回っている。 | ・今後も叙述に沿って文章を読む学習を丁寧に行っていく。<br>・ただ単に叙述に沿って読むだけでなく、叙述を基に理由を明確にして登場人物の心情を考えたり、場面の様子を想像したりして読む学習をしていく。また、読み取ったことを基に、自分の考えをまとめる機会を多くとり、常に教材文から何が分かったのか、何を学んだのかを考えさせるようにする。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 平均正答率は、市の平均、国の平均とも上回っている。<br>○漢字の読み、書きの設問全てで、正答率が国を上回っている。これは、普段から20問のミニテスト等を行い、新出漢字の定着を図ってきた成果と思われる。                                                                   | ・今後も漢字ドリルと漢字練習帳を効果的に活用し、漢字練習をさせ、定着を図っていく。また、20問のミニテストを行い、できなかった漢字を明らかにすることで、正しく漢字が書けるようにしていく。<br>・定期的に50問テストを行い、間違えた漢字を練習させ、再テストを行うことで既習の漢字のさらなる定着を図っていく。              |

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

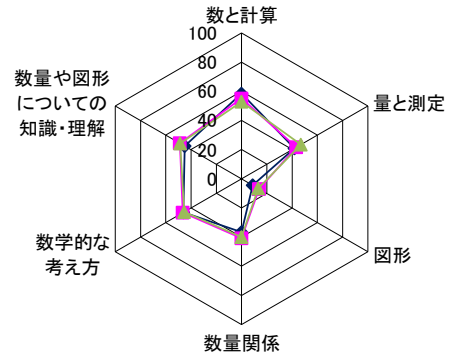
【算数A】

| 分類 | 区分              | 本年度  |      |      |
|----|-----------------|------|------|------|
|    |                 | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と計算            | 84.2 | 82.9 | 80.6 |
|    | 量と測定            | 73.9 | 72.5 | 68.8 |
|    | 図形              | 80.4 | 80.8 | 81.1 |
|    | 数量関係            | 80.9 | 81.9 | 79.6 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度    |      |      |      |
|    | 数学的な考え方         |      |      |      |
|    | 数量や図形についての技能    | 81.0 | 81.2 | 77.7 |
|    | 数量や図形についての知識・理解 | 82.2 | 80.9 | 79.7 |



【算数B】

| 分類 | 区分              | 本年度  |      |      |
|----|-----------------|------|------|------|
|    |                 | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と計算            | 58.5 | 55.1 | 52.8 |
|    | 量と測定            | 41.9 | 43.4 | 47.0 |
|    | 図形              | 8.8  | 13.8 | 13.2 |
|    | 数量関係            | 36.6 | 40.8 | 40.0 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度    |      |      |      |
|    | 数学的な考え方         | 46.1 | 46.5 | 45.4 |
|    | 数量や図形についての技能    |      |      |      |
|    | 数量や図形についての知識・理解 | 44.9 | 48.8 | 48.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                               |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | 平均正答率は、算数A、B問題ともに国、市のそれよりやや上回る。<br>○整数や小数の乗法、整数と小数の混じった加法の計算はよくできている。計算ドリル等を活用し、計算練習を繰り返し行ってきた成果であると考えられる。<br>○問題に示された二つの数量の大小関係、示された場面を読み取り、適切に立式して答えを導き出すことができた。 | ・今後も基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、朝のスキルタイムの時間に個に応じた指導を行っていく。<br>・小数の計算や整数との大小関係については、数の仕組みを理解できるように単位表を用いながら繰り返し指導していく。<br>・示された考えを解釈し、数を変更した場合でも同じ関係が成り立つことを理解させるために、数直線や図などを活用して理解させるよう指導する。              |
| 量と測定  | 平均正答率は算数A問題では国や市よりやや上回るが、B問題では国・市よりやや下回っている。<br>○重さや長さについて任意単位による測定を理解している。図や数直線を使って指導を重ねてきたことの成果であると考えられる。<br>●平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方の理解に課題がみられる。     | ・図や数直線などを使って指導することにより、理解が深まるため、今後も具体物を活用しての学習を進めていく。<br>・理由を記述する設問に課題がみられたので、自分の考えを式や図、言葉などを用いて表現する学習を進めていく。<br>・平行四辺形や三角形の底辺と高さの関係を認識させるために、計算式を発表し合うだけでなく、工夫した考え方をわかりやすい言葉や図でノートにまとめさせるなどして理解を深めさせる。 |
| 図形    | 平均正答率は、算数A問題では国や市とほぼ同程度であるが、B問題では、下回っている。<br>○正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成されていることを理解している。<br>●立方体の面と面の位置関係の理解について課題がみられる。                                                 | ・図形の性質などの基本的な知識を再確認し、さらにそれらを活用して物事を判断したり説明したりする力をはぐくむ必要がある。授業においては、図形を観察して性質を見出し、それらを用いて線分の長さを求めるなど、図形の性質を用いるなど、図形の性質を用いる学習を積極的に取り入れていく。                                                               |
| 数量関係  | 平均正答率は、算数A問題では国や市とほぼ同程度であるが、B問題では国や市のそれよりやや下回っている。<br>○道の数量を表す□を用いて問題場面を式に表す問題は正答率が高かった。<br>●示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、記述する問題では課題がみられる。                        | ・全学年を通して2つの数量の関係の比べ方や表し方を繰り返し指導する。<br>・事象における基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえさせるために、数直線を用いてそれらの関係を明確にできるよう、ノートに書いたり、グループ活動において児童同士学び合ったりして理解を深められるようにする。                                                           |

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」という設問では、児童の肯定割合は100%であり、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」という設問では、児童の肯定割合が85%であり、いずれも全国平均を上回っている。これは、子どもたちに成功体験を積み重ねてきた成果と考えられる。  
今後も、学習だけでなく、文化、スポーツ等、様々なことに挑戦させ、スモールステップで成功体験を積み重ねることでやり遂げる喜びや何にでも挑戦しようとする意欲を育てていきたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。」という設問では、児童の肯定割合は100%であり、「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか。」という設問では、児童の肯定割合は93%であり、全国平均を上回っている。これは、授業の中で、ペア学習やグループ学習などの「学び合い」を多く取り入れた成果と考えられる。  
今後も、ペア学習やグループ学習を的確に取り入れ、友達の話を聞いたり、自分の考えを持たせたりできるように、「学び合い」を行っていきたい。

○「家で、学校の授業の復習をしていますか。」という設問では、児童の肯定割合は72.6%であり、全国平均を上回っている。これは、家庭学習や自主学習の定着を図ってきた成果だと考えられる。  
しかし、72.6%と、80%に届いていないので、今後は、学習したことをその日のうちに復習することが、記憶の定着につながることを児童に伝え、家庭学習の意味を理解させるなど工夫して、さらに定着を図っていきたい。

●「学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていきますか。」という設問では、児童の肯定割合が50%にとどまり、県の平均を下回っている。  
今後は、ペア学習、グループ学習などの「学び合い」の際、ペア学習やグループ学習の目的をきちんと児童に伝え、考えを広げるのか、考えを一つにまとめるのか、明らかにして「学び合い」に臨むようにしていく。

○「5年生までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」という設問では、児童の肯定割合は91%であり、全国平均を上回っている。これは、道徳の授業でもペア学習やグループ学習を取り入れ、児童の考えを深める授業を行ってきた成果と思われる。  
今後も、ペア学習やグループ学習の機会を多くとり、児童の道徳的価値の高まりや学力の向上のため、的確に「学び合い」の授業を取り入れていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第6学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組               | 取組の具体的な内容                                                                           | 取組に関わる調査結果                                                                                                               |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自分の考えを分かりやすく表現する力の育成 | すべての学年で、ペアやグループで互いの考えを伝えあったり、相談したりする場を意図的に設けたり、自分の考えを言葉で書き表す活動を多く取り入れたりする。          | 「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」の質問の肯定割合は90ポイント以上で県や全国と比べ高い。                                |
| 基礎基本の確実な定着を図る指導      | 朝の学習の時間にスキルタイムを設定し、漢字や計算の習熟の機会を確保し、個別の指導も同時に実施して指導している。                             | 算数の「数と計算」の領域の平均は、算数A・Bとも市や全国よりやや上回っている。国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均は、市や全国をやや上回っている。                                      |
| 家庭学習の習慣化への指導         | 家庭学習のヒント集で、低・中・高で目指す家庭学習の時間や内容を知らせ、学年に応じて、宿題以外にも自主学習に取り組ませる。家庭学習カードに記入し習慣化を図るようにする。 | アンケートによると、「家で計画を立てて勉強している」の質問に対する肯定割合は、県や全国より10ポイント以上高い。「家で、学校の授業の復習をしている」の質問の肯定割合も、県や全国より5ポイント以上高く、家庭学習の習慣化への意識が高まっている。 |